

1.2 利用者との接続形態

NACCS センターサーバと各利用者システムとの接続形態として、利用ネットワークごとに NACCS ネットワーク (Peer to Peer 接続、ルータ接続、ゲートウェイ接続)、インターネット (netNACCS 接続、WebNACCS 接続、ゲートウェイ接続) がある。イメージを図 1-2-1 に示す。

1.2.1 NACCSネットワーク

1.2.1.1 Peer to Peer 接続

NACCS センターサーバと利用者のパソコンとを、1 対 1 で接続する形態であり、データ送受信処理方式として、インタラクティブ処理方式が利用可能である。

NACCS センターが提供するパソコン用パッケージソフトを使用し、NACCS センターサーバへのアクセスは専用線、ADSL、またはブロードバンド光の回線が利用可能である。

1.2.1.2 ルータ接続

NACCS センターサーバと利用者の LAN 上の複数のパソコンを接続する形態であり、データ送受信処理方式として、インタラクティブ処理方式が利用可能である。

NACCS センターが提供するパソコン用パッケージソフトを使用し、NACCS センターサーバへのアクセスは専用線、ADSL、またはブロードバンド光の回線が利用可能である。

1.2.1.3 ゲートウェイ接続

NACCS センターサーバと利用者のゲートウェイコンピュータを接続する形態である。

(1) ゲートウェイ接続 (SMTP/POP3)

データ送受信処理方式として、メール処理方式 (ゲートウェイコンピュータ) が利用可能であり、アクセス回線として、専用線、ADSL、またはブロードバンド光の回線が利用可能である。

(2) ゲートウェイ接続 (SMTP 双方向)

利用者側サーバでインタラクティブ処理のインターフェースを守ることが前提である。データ送受信処理方式として、インタラクティブ処理方式 (SMTP 双方向) が利用可能であり、アクセス回線として、専用線、ADSL またはブロードバンド光の回線が利用可能である。



NACCS ネットワークとは、NACCS が提供する専用網である。

専用線回線を用いた接続とは、常時、NACCS センターサーバへの通信経路を確立させておく接続方法である。回線の利用時間に関わらず、回線の使用料金は一定である。

ADSL 回線を用いた接続とは、電話線を使用して高速なデジタルデータ通信を行う接続方法である。回線の利用時間に関わらず、回線の使用料金は一定である。

ブロードバンド光回線を用いた接続とは、光ファイバーを使用して高速なデジタルデータ通信を行う接続方法である。

なお、ADSL 接続及びブロードバンド光接続は、ベストエフォート型回線のため、帯域保証は無い。

(「付録 4 アクセス回線とアクセスポイントについて」を参照)

1.2.2 インターネット

1.2.2.1 netNACCS

NACCS センターサーバと利用者のパソコンとを、1 対 1 で接続する形態であり、データ送受信処理方式としてインタラクティブ処理方式 (netNACCS) が利用可能である。

NACCS センターが提供する『パソコン用パッケージソフト netNACCS 処理方式』を使用し、NACCS センターサーバへのアクセスは、インターネット回線を利用して行う。

利用者側のパソコンと NACCS センターサーバの間は、クライアント/サーバ認証を行い、通信は HTTP の暗号化においてデファクトスタンダードとなっている TLS を採用する。

1.2.2.2 WebNACCS

NACCS センターサーバと利用者のパソコンとを、1 対 1 で接続する形態であり、データ送受信処理方式として WebNACCS 処理方式 (Web ブラウザを使用) が利用可能である。

Web ブラウザを使用し、NACCS センターサーバへのアクセスは、インターネット回線を利用して行う。

利用者側のパソコンと NACCS センターサーバの間は、クライアント/サーバ認証を行い、通信は HTTP の暗号化においてデファクトスタンダードとなっている TLS を採用する。

1.2.2.3 ゲートウェイ接続（ebMS 処理方式）

NACCS センターサーバと利用者のゲートウェイコンピュータを ebMS2.0 で接続する形態であり、インターネット回線を利用して行う。

NACCS センターサーバと利用者のゲートウェイコンピュータ間の通信は、HTTP の暗号化においてデファクトスタンダードとなっている TLS を採用する。

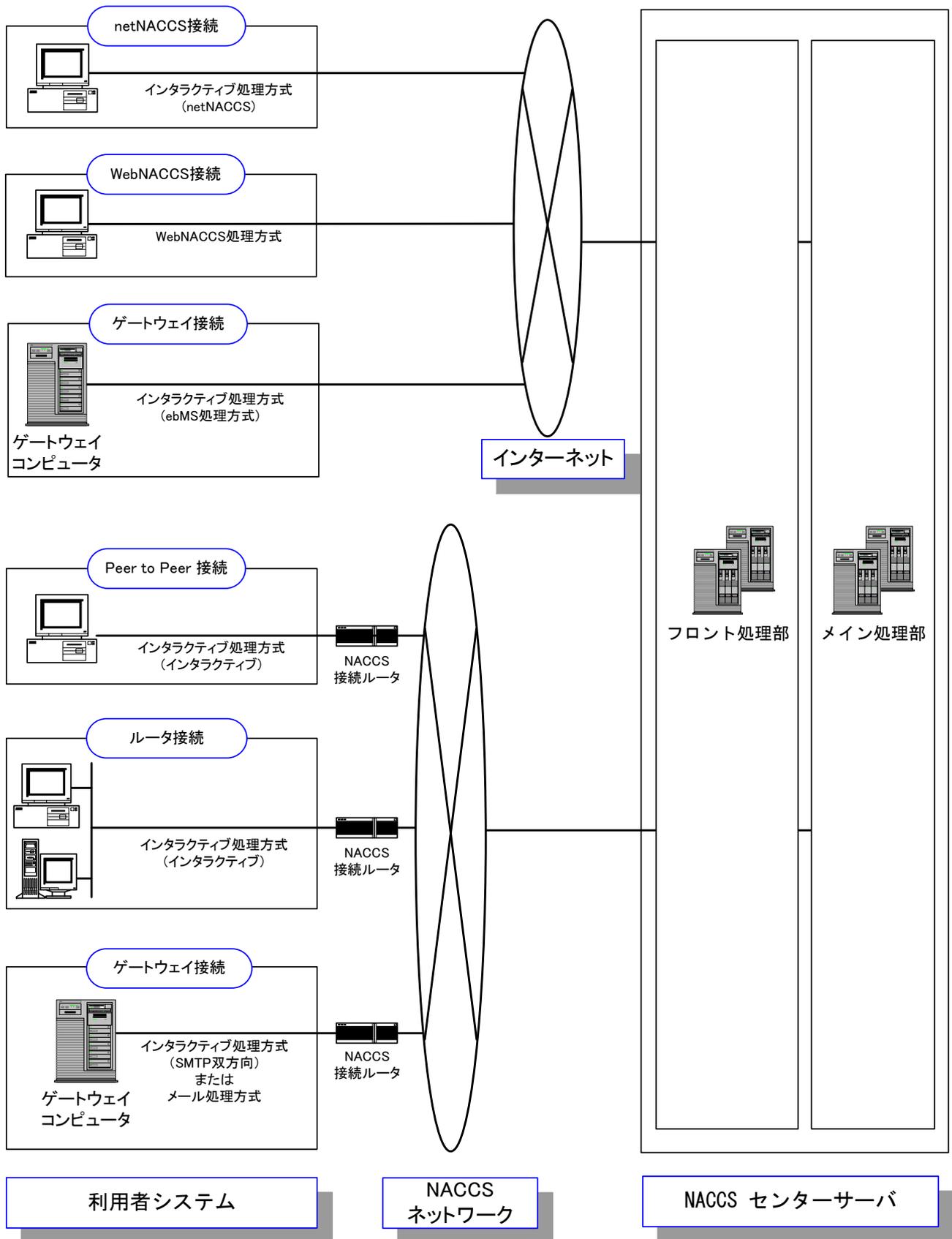


図 1-2-1 利用者との接続形態